

ティーチング・ポートフォリオ

ドジャリロワ ニゴラ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
※ご自身のお名前を入力してください。

教育の責任

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
Social sciences I	1	3	講・演	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
専門演習ゼミ1 グローバルコミュニケーション演習 A-1	3	1	講・演	選択	専門基礎・共通 (コース共通の専門科目)
専門演習ゼミ1 グローバルコミュニケーション演習A-2	3	1	講・演	選択	専門基礎・共通 (コース共通の専門科目)
Discussion Skills A ディスカッション&プレゼンテーションスキル A	2-3	10	演習	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
Discussion Skills B ディスカッション&プレゼンテーションスキル B	2-3	10	演習	選択	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
EAP Basic 1②	1	15	演習	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
EAP Basic 1③	1	15	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
EAP Basic 2②	1	15	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)
EAP Basic 2③	1	15	講・演	必修	総合教養 (1年次から履修できる教養系科目)

教育の理念

私が担当する Social Sciences、グローバルコミュニケーション演習や英語でのディスカッション関連の授業において学生の皆さんの批判的な思考（クリティカルシンキング）を通して様々な国際的な問題や日本社会が直面している課題とその解決について議論をする機会を提供する。それらを通して、学生のみなさんが証拠に基づき理論的で偏りのない思考を使いながら自己の意見などを相手に伝える能力を身に付けることを学んで頂きたい、皆さんとグループワークやゼミを実施している。これらの授業はそのような学びの場であり、英語で行うことを通してより広い考え方や多文化・他社会にある情報・考え方を把握することができるように工夫している。

教育の方法

● アクティブ ラーニング

私の担当授業の主な教育方法の一つにアクティブ・ラーニングがあげられる。アクティブラーニングは学生のみなさんが授業中に受け身ではなく、自ら学びに向かうようモチベーションを当てる教授・学習法のことである。その一環として、グループワークやディベートなどがあげられ、学生が自発的に様々な知識や情報を使いこなすための手段として理解される。

- プレゼンテーション能力の向上を目指した PPT などによる発表

グループワークなどで得られた成果を学生がパワーポイントなどを利用し、発表を行い、ほかのクラスメイトと意見交換、議論を行うことを通して自らのコミュニケーション能力や表現力を上げることを目指す。

- 教員からのフィードバックと改善

学びの一環として学生のグループワークと発表に対し、教員との意見交換とフィードバックは必要不可欠と考える。教員から得たフィードバックを次のプレゼンテーションに活用することもコミュニケーション能力の向上と教育の重要な側面である。

教育の成果 および 今後の目標

日本の社会や国際社会が直面している問題や国際的な課題について、用語、背景情報の一定の支援があれば、話の展開に注意を払い、読んだり聞いたりして、書き手・話し手の意図を目的に応じて、簡潔に、自分の考え方を英語で説明することが出来る。同時に、関連情報や意見や気持ちなどを話して伝えることができる。加えて、課題として取り上げられるテーマについて自らの考え・意見・主張を、適切な複数の理由や根拠を添え、視覚資料を利用して、まとまりのある発表ができる。

参考資料

なし